



『東北圏だより』



計画推進へ向けてより一層の連携をよろしくお祈いします！

東北地方整備局建政部長 東 潔

東北地方整備局に赴任したのは、いまから2年以上前の平成20年7月4日、ちょうど全国計画が閣議決定された日でありました。それから1年あまり、何回にもわたって開かれた幹事会、検討会議、協議会等を通じて昨年8月4日に東北広域地方計画の大臣決定がなされました。



おそらく東北圏だよりをお読みになっている方の多くが、当時のご担当の方と代わっておられることと思います。

東北圏は他の圏域と比べて、地方計画の推進に熱心だと言われております。東北広域地方計画の策定過程を振り返ってみますと、東北圏広域地方計画協議会構成機関同士の議論も他の地域と比べて大変熱いものであったという記憶があります。広域地方計画の性格に対する誤解などもあったかとは思いますが、計画の細部についてまで、時に白熱したやりとりもあり、一体このまま協議会として合意できるのか心配な時期もありました。

しかしながら、こうした策定過程での真剣な議論が、計画策定後の取り組みの推進力につながっているのではないかと考えております。

世界経済情勢が大きく変動する中で、「1年以上も前に決定された広域計画の推進といっても意味がないのではないか」という方もいらっしゃるかもしれません。そんな方は是非もう一度「東北圏広域地方計画」本文や東北広域地方計画推進室HP掲載の各種参考資料をご一読ください。東北圏の「強み」や「弱み」を把握した上で、各分野において「強み」を最大限活用する方策とそのために解消すべき「弱み」などすべての処方箋が書いてあると考えております。PTの活動等を通じて、東北圏の発展のため、心を新たに一層連携を深めていきましょう。

協議会構成機関からの情報—福島県—

福島県では昨年12月、子どもたちが親の世代となる30年後を展望しながら、今後5年間の県づくりの指針となる福島県総合計画「いきいき ふくしま創造プラン」を策定しました。

この計画では、基本目標に「人がほほえみ、地域が輝く“ほっとする、ふくしま”」を掲げ、本県を支える主役である「人」が、いきいきとして笑顔にあふれ、活躍する中で「地域」の輝きが増し、県民や本県を訪れるすべての人にとっても癒される「ほっとする」ふくしまを創り上げていくこととしています。

また、福島県内各地に息づく地域社会のきずなとそれを支える温かい県民性は、県づくりを進める上で基本となるものであり、次世代にも引き継いでいかなければならないものであることから、「人と地域」をふくしまの礎として位置づけ、そこに、「活力」、「安全と安心」、「思いやり」の3本の柱を据えて、施策の展開を図ることとしています。

基本目標 人がほほえみ、地域が輝く“ほっとする、ふくしま”	
めざす将来の姿	30年程度先を展望して実現を目指すふくしまの姿
【ふくしまの礎】人と地域が輝く「ふくしま」 <small>(分野)子どもから大人まで一人ひとりの輝きと生きがいが見いだせる社会</small> <small>(分野)魅力と個性にあふれた地域社会</small>	
ふくしまを支える3本の柱	【活力】いきいきとして活力に満ちた「ふくしま」 <small>(分野)地域に根ざした力強い産業に支えられた社会</small> <small>(分野)多様な交流ネットワークに支えられた社会</small>
	【安全と安心】安全と安心に支えられた「ふくしま」 <small>(分野)誰もが健康で安心して暮らせる社会</small> <small>(分野)さまざまなリスクに対して安全で安心な社会</small>
	【思いやり】人にも自然にも思いやりにあふれた「ふくしま」 <small>(分野)支え合いの心が息づく社会</small> <small>(分野)美しい自然環境に包まれた持続可能な社会</small>
	基本姿勢 能力の再認識・発信 多様性・総合力の発揮 チャレンジ
ふくしまの礎とふくしまを支える3本の柱を掲げるとともに、目指すべきふくしまの将来の姿を描いています。	

さらに、この施策体系を横断した観点で取り組むべき課題については重点プログラムとして「未来の主人公であるふくしまの子どもたち育成プログラム」、「ふくしまの特性を生かした産業の総合力発揮プログラム」、「地域活性化を導くふくしまの低炭素社会づくりプログラム」、「ふくしまのにぎわい創出プログラム」、「健康で生きがいに満ち、安全で安心なふくしまづくり推進プログラム」の5つを設定し、戦略的に対応していきます。

計画初年度となる今年度から、重点施策の展開や重点プログラムに基づく戦略的な取組みを全部局が連携して進めているところであり、東北圏広域地方計画の推進においても、協議会の構成機関を始め関係機関等と連携・協力を図りながら、東北圏全体の活性化に向けた取組みを進めていきたいと考えています。

計画のフォローアップについて（第3回）

東北圏広域地方計画の平成21年度フォローアップ結果の概要を掲載いたします。この特集は今回で最終となります。

1. 「日本のふるさと・原風景」を体験できる滞在型観光圏の創出プロジェクト

〔「日本のふるさと・原風景」を象徴する地域資源の発掘・磨き上げ〕に関しては、各観光圏の地域資源を活用した体験型観光メニューの検討や造成、観光ボランティアガイド等の研修会を実施しました。〔「日本のふるさと・原風景」を体験できる滞在型観光圏の形成〕に関しては、新たな観光圏の形成や各観光圏において複数の体験型メニューを検討・開発し、観光圏の知名度向上の取組みや地域間の広域連携強化を活かした事業展開を実施しました。〔東北圏内の移動手段の充実〕に関しては、高速バスネットワークを活用した移動手段の充実PTにおいて東北高速バス共通フリーバス実証実験等を実施しました。〔官民一体となった効果的なプロモーション活動〕に関しては、海外メディアや旅行エージェントへのプロモーション活動などの観光PRを実施しました。プロジェクトの課題と今後の取組の方向としては、観光入込客数が停滞する中で、東北ならではの観光の魅力を「発掘・育成」し活用していくことが課題であり、観光圏内の広域連携強化や滞在型観光メニューの検討等を実施することとしています。



▲観光関係者等と海外旅行
エージェントとの商談会

2. グローバル・ゲートウェイ機能強化プロジェクト

〔産学官連携による東北圏の効率的な国際物流体系の構築〕に関しては、学識経験者、荷主及び物流事業者、物流関係団体、荷主関係団体、経済団体及び国の行政機関をもって構成される「東北国際物流戦略チーム」等により、荷主企業に対しポートセールス、出前説明会を行いました。また、国際物流の現状や課題、東北の港湾利用の可能性等についての「国際物流講演会」を行いました。〔効率的な国際物流体系の構築〕に関しては、45フィート国際海上コンテナの国内輸送実現に向け、シンポジウムを開催するとともに、複合一貫輸送（シーアンドレール）の各種検討及び貨物輸送実験を実施しました。プロジェクトの課題と今後の取組の方向としては、東北圏の港湾利用拡大の促進を図るため、港湾への利用転換成功事例集を充実するとともに、東北国際物流戦略チーム等による効率的な荷主企業へのポートセールス、出前説明会、各種検討を行います。また、効率的な国際物流体系の構築の取り組みとして、45フィートコンテナの国内輸送実現に向けた公道輸送の実証実験を行うとともに、複合一貫輸送（シーアンドレール）について、新潟港を中心とした輸送実験を行うこととしています。



▲秋田港シーアンドレール実証実験

3. 環日本海広域交流圏の形成プロジェクト

〔広域連携による東アジアとの互惠関係の構築〕に関しては、岩手 県、秋田県によるシンガポールでのビジネスマッチング（商談）や、日系百貨店の東北フェアに県内企業・団体が出展し、個別商談会

を開催しました。また、宮城県、新潟県ではロシア市場への販路開拓・拡大等のため、ロシアにて見本市、商談会及び県産品販売促進コーナーなどを設置しました。〔人材交流の促進〕に関しては、新潟大学、新潟県立大学等と中国・韓国・ロシア等環日本海地域の大学との連携の促進を図るとともに、歴史・文化資源等を活かした交流プログラムの展開として、秋田県由利地域と山形県庄内地域の連携による鳥海山を柱にした交流、秋田県・山形県・新潟県による北前船をテーマとした台湾エージェントの招聘や山形県・福島県・新潟県による歴史、文化、食をテーマとした周遊ルートの策定など、地域資源を活かした活動を実施しました。プロジェクトの課題と今後の取組の方向としては、広域連携による東アジアとの互惠関係の構築にあたり、海外現地企業とのビジネスマッチング、バイヤー招聘を通じて、経済交流を充実させることやRORO船等を利用したロシアへの輸出拡大に向けた輸送システム構築のための「ロシア航路」開設に向けた取組を推進することが課題であり、海外における現地企業とのビジネスマッチングや、県産品フェアなどにより、貿易投資・物流促進、経済交流の促進を図るとともに、日本海沿岸に寄港するRORO船等を利用したロシアへの農産物の輸出拡大に向け、港湾施設使用料等の助成や試験輸送を行い定期寄港化を目指すこととしています。



▲シンガポールで開催された日系百貨店での東北フェア（H21.9.9）
（写真：秋田県ホームページより）

4. 地域づくりコンソーシアム創出による地域支援プロジェクト

〔地域づくりコンソーシアムの構築〕に関しては、「新たな公」PTにおいて、自治体と地域づくり活動団体を対象に地域づくり等の現状把握を目的とするアンケート調査を実施しました。また、〔コンソーシアムを用いた地域づくり支援システムの構築〕に関しては、アンケート結果から、中山間地域における活動団体・活動内容の整理を行い、自治体や活動団体が抱える課題を把握し、中間支援システムに求められる項目を整理しました。プロジェクトの課題と今後の取組の方向としては、コンソーシアム体制構築にあたり、人的・財政的な支援体制等の整備に向けた検討が課題であり、「新たな公」PTにおいてコンソーシアム像の明確化や地域コミュニティ支援団体等のネットワーク化等にかかる検討を実施することとしています。



▲東北圏地域づくりコンソーシアム
推進協議会主催 オープン研究会開催

取組推進PT（プロジェクトチーム）の動き

○第3回『地域医療支援』取組推進PT会議

9月7日、東北厚生局会議室において、第3回地域医療支援取組推進PT会議が開催されました。

はじめに、「東北圏における救急医療体制の課題分析等」に関する調査（広域ブロック自立施策等推進調査費による）について、東北厚生局から調査結果の報告を行い、その後、東北地方整備局から平成21年度の検討内容と平成22年度の主な取組み課題の説明が行われ、それぞれについてプロジェクトチーム構成員から御意見をいただきました。

また、その他として東北厚生局及び東北総合通信局から平成23年度予算概算要求の説明や東北地方整備局から河川・道路管理用光ファイバ及び収容空間の民間への開放についての説明がありました。

「東北圏における救急医療体制の課題分析等」に関する調査及び平成22年度の主な取組み課題については、改めて構成員から御意見をいただくことになっており、それらを踏まえて、PTの今後の取組みについて検討する予定です。

○第1回『新エネルギー等の導入促進』PT会議

9月22日、東北経済産業局（仙台市）において、第1回「新エネルギー等の導入促進PT会議」が平成22年度第2回東北地域エネルギー・温暖化対策推進会議幹事会と同時開催されました。

当該PTについては昨年12月に参加機関を決定し、各機関の施策情報や域内所掌部門の新エネルギー等の導入進捗度を情報共有し、導入促進に資することを活動内容としております。

PT会議では、東北経済産業局から「再生可能エネルギー活用ビジョン等の事業化支援に向けた取り

組み」、「東北地域産業のスマートグリッド市場への参入促進に向けた取り組み」の進捗状況を報告するなど、各機関の新エネルギー等の導入促進に係る情報交換を行いました。そのほか、各機関相互の情報連絡手段や今後のPT会議の開催方法等について、話し合いました。

地域公共交通活性化シンポジウム in 山形（公共交通で山形を元気に！）を開催

地域公共交通は、地域の経済社会活動の基盤として大きな役割を担っています。その活性化を図るためには、当該地域にとって最適な公共交通のあり方について、関係者が一体となって取り組むことが必要であり、地域公共交通の活性化が課題となっている山形県において、その活性化に取り組んでおられる方々を対象に、東北運輸局と山形県が共催して、9月15日（水）13：30～山形県郷土館文翔館にて地域公共交通活性化シンポジウム in 山形（公共交通で山形を元気に！）を開催しました。

当日は、地方自治体交通担当者、交通事業者、NPO等地域公共交通に関心のある方々に参加していただき、はじめに大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授 森栗 茂一 氏「交通計画における住民協働の有効性と展開法」と題する基調講演で、公共交通のシステムは、住民が動いてニーズを反映させないと続かない。行政は住民の議論や活動を後ろから支えるのが役割である等のお話がありました。次に地域公共交通活性化に関する国の制度紹介、取組事例（「広島県大竹市における生活交通確保に向けた取組みについて」、「山形県遊佐町におけるデマンド型交通」）の紹介をし、パネルディスカッションでは、森栗 茂一 氏をコーディネーターとして、パネリストの方々から「住民が主体的に活動し需要を反映させながらシステムを構築しないと上手く機能しない等の意見をいただきました。



▲基調講演



▲パネルディスカッション

東北圏広域地方計画シンポジウムを開催します

日 時：平成22年11月16日（火）14：00～17：30

場 所：岩手県盛岡市 岩手県民情報交流センター アイーナホール

開催内容：○基調講演 「東北圏におけるこれからの自動車関連産業」

小林 英夫 氏 早稲田大学大学院 教授

○取組事例紹介 「とうほく自動車産業集積連携会議の取組」

岩手県 商工労働観光部

○パネルディスカッション 「東北の新しい産業の可能性について」

申し込み等の詳細は以下のHP等で確認できます。

東北地方整備局HP：<http://www.thr.mlit.go.jp/kokudo/>

編集後記

いや～異常に長く暑かった季節もやっと過ぎ去り、過ごしやすい今日この頃となりましたね。しかし、遠方の山々を見渡すと既に赤く枯れた木々が見受けられます。我が家でも盆栽のいくつかがあまりの暑さで枯れてしまいました。残念です。これらの現象は地球環境が悪化していることの警鐘なのでしょうか・・・。「地球温暖化に伴い高まる自然災害リスクへの適応策プロジェクト」による取組が一層重要となりますね。いずれにしても、この酷暑の反動が冬に来なければ良いのですが。(M・I)

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp